

# 物流博物館 NEWS VOL. 4

## 小学校社会科見学特集号

2001年9月15日発行

暑い夏も終わり、吹く風や空の気配に秋を感じる今日この頃、みなさんいかがお過ごしでしょうか。昨年に引き続き、今年も「小学校社会科見学特集号」をお届けいたします。

物流博物館では、開館以来、学校関係の団体見学にはとくに力を入れて取り組んできました。おかげさまで、昨年度もたくさんの児童のみなさんに当館を見学していただくことができました。

来年度は新学習指導要領の施行と、「総合的な学習の時間」の本格的な実施により、当館での見学のあり方も大きく変わってくるのが予想されます。今号の特集では、昨年の見学状況のご報告や今年度の見学情報の他、ごらした新しい動きに対する博物館の対応などもごめくご紹介したいと思います。

## 特集 小学校の社会科見学

### 1. 昨年度の見学のようす

#### ・見学者数

物を運ぶ、という運輸を中心とする物流の仕事は、人間が生活していく上で欠くことのできない仕事です。そうした物流が、どのような歩みをたどって今日の姿となり、また、今日の産業やわたしたちの生活を支えている



見学のようす（「現代の物流」展示室にて）

のかを知っていただくために、物流博物館ではさまざまな展示を行っています。

そんなわけで、当館を訪れる小学校の団体見学は、運輸について社会科で学習する小学校5年生が中心となっています。昨年度は54校、約3千名の児童の皆さんが当館を見学してくださいました。地域別では都内が最も多く、次いで千葉・神奈川・埼玉の順となっています。

昨年度、1校あたりでもっとも多かった見学者数は150名（4クラス）でしたが、基本的には3クラスまでの見学校が多く、近隣の学校など1クラス単位で授業の一環として見学して下さる学校も多くありました。



物流の歴史展示室

#### ・見学の実際

当館を見学していただく場合、通常は館内の映像展示室で物流に関するオリジナルのビデオ作品を2本見た後、学芸員が各展示室を案内するという方法をとっていますが、ケースバイケースでさまざまな見学会を実施しています。

下に示したのは、昨年度に見学して下さった神奈川県下のある小学校の見学の進め方です。

#### <見学の進め方—神奈川県A小学校の場合—>

見学者数：98名(3クラス)

見学時間：10時～13時45分

10時00分～12時00分＝見学・宅配便Q&A

12時00分～12時30分＝館内で昼食

12時30分～13時45分＝フリー・映像視聴

見学方法：クラスごとに3つの展示室（「物流の歴史」展示室／「現代の物流」展示室／映像展示室）を40分交替でまわった。歴史と現代の展示室では、学芸員が展示解説を行った。また、このとき館で作成したワークシートを利用した。なお、映像展示室では、宅配便の会社から講師を招き、子どもたちの質問に答える時間を設定した。

昼食後は、やはりクラスごとに3つの展示室を25分交替でまわり、フリータイムの見学時間としたが、映像展示室では、物流に関する小学生向けのオリジナルのビデオ2本を上映した。



前ページの小学校の場合、見学者数は多めでしたが、見学時間を比較的長くとることができたので、いろいろな見学メニューを設定することができました。

この学校は見学時間が比較的長い例のひとつですが、一般的には、1時間30分～2時間の見学が多く、また、時間の都合で1時間以下の見学時間の学校もありました。

いずれにしても、見学メニューを工夫することで、調べ学習の時間やフリータイムなどを取り入れた多彩な見学会を実施したいと考えています。

## 2.見学校へのアンケートからわかったこと

物流博物館では、見学していただいた学校にアンケートをお送りしています。見学についての先生方のご感想を伺い、今後の見学対応に役立てようというものです。昨年度は、75名の先生方からご回答をいただきました。先生方にはお忙しいところアンケートにご協力いただきありがとうございました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

以下に、このアンケートの集計から得られたいくつかの点を少しご紹介してみたいと思います。

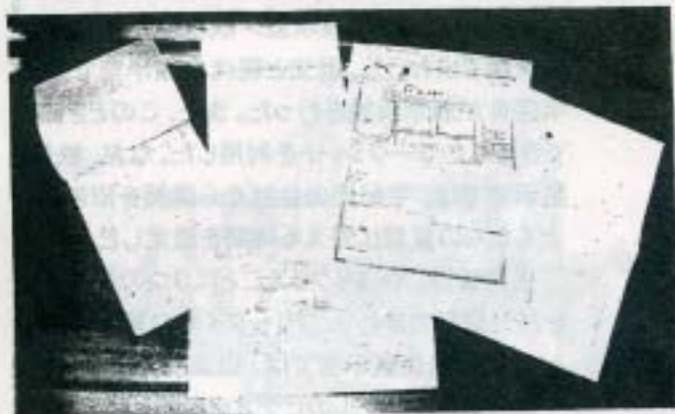
### ・見学時間・時間配分

見学時間については、1時間程度の見学時間だとやはり短いと感じられた先生方が多かったようです。しかし、1時間30分～2時間の見学時間をとっていたにもかかわらず、「やや短い」とした回答も多く寄せられました。このことはアンケートを見る限り、フリータイムの有無と関連しているようです。「現代の物流」展示室は、次ページでご紹介するように物流ゲームやクイズ、ビデオ映像など自由に見学する装置が多いので、これらを見るためには、十分なフリータイムが必要となるようです。

同時に、これまで当館では学芸員による展示解説を重視した見学対応を行ってきましたが、自由に展示を見てもらい、自発的な働きかけや発見を実現できるような見学メニューを開発する必要も強く感じています。

### ・ワークシート

当館では、見学に際して館で作成したワークシートのご利用をお勧めしています。ワークシートの質問に答えることで、展示内容についてポイントを押さえた理解が



児童の皆さんから寄せられた手作りの新聞やお礼状

可能となり、また見学したことへの記録にもなると考えています。

このワークシートについては、「学校での学習に沿っている」などおおむね好評をいただいたようですが、「ややむずかしい」とのご意見も一定数寄せられており、今年度作った改訂版のワークシートでは、もっと記入のしやすさや難易度に配慮した構成を考えてみました。ワークシート利用に関しても、子どもたちの自発的な関心を引き出すことに関心を持っておられる先生方が多いように感じられました。

### ・展示内容・展示解説

展示内容については、「わかりやすい」とされたご意見が38、「普通」が22、「ややむずかしい」が6でした。

学芸員による展示解説に関しては、わかりやすさ・時間とも、多くの場合よい評価をいただきましたが、「説明の内容のポイントをもっと絞った方がよい」など貴重なご意見もありました。学芸員が必ず展示解説を行うという方法に館側の熱意を感じ取ってくださった先生方が多く、とてもうれしく感じました。

### ・好評だった「宅配便Q&A」



宅配便について質問することもたち

以前より「宅配便の仕事をしている人にインタビューしたい」との要望が館に寄せられていたことを受けて、昨年度より希望のあった学校には、宅配便について学ぶQ&Aの時間を設定してみました。日本通運からベリカン便の仕事をしている人を講師として招き、児童の皆さんの質問に直接答えてもらうというのですが、「宅配便の係の人の生の声が開けた」などと大変ご好評をいただきました。

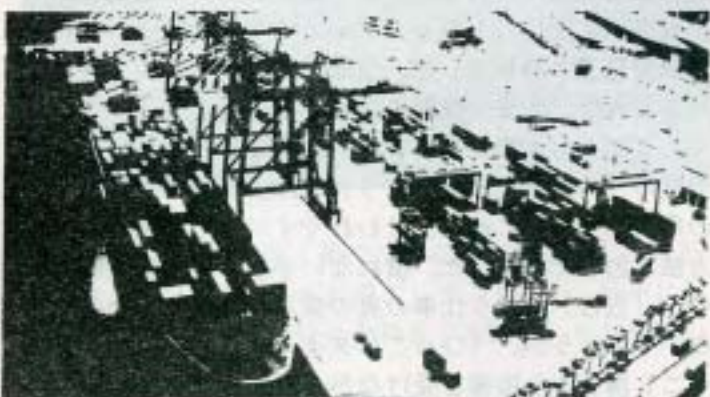
### ・人気の展示

館内でもっとも人気のあった展示は、昨年同様、「現代の物流」展示室にある空港・港・トラックターミナル・鉄道貨物ターミナルを150分の1の模型で表現した陸海空の大型ジオラマでした。次いで、同展示室の「物流ゲーム」と「宅配便コーナー」、「物流の歴史」展示室の「昔の荷物・荷役道具」と「明治時代の新橋駅の貨物ホーム模型」が、いずれも同点で2位に入りました。

また、今回のアンケートの設問にはなかったのですが、見学後に児童の皆さんからいただいたお礼状や先生方が



アンケートに書いてくださったコメントを拝見すると、「現代の物流」展示室の宅配便のユニフォーム（自由に着用して記念撮影ができます）や、「物流の歴史」展示室の米俵（実際の6分の1の重さにしてあり、学芸員が担ぎ方を教えてあげています）に人気があったようです。このような実際に手で触れて体験できる展示は、今後も増やして行きたいと考えているところです。



人気の「陸海空の物流ターミナル」大型ジオラマ（部分）

陸海空の物流ターミナルを鳥の視点で見ることができます。物流が24時間動いていることを表現するため、模型でも夜になり朝がやってきます。細部が動く仕掛けになっていて、ビデオモニターで各ターミナルの実際の様子を見ることもできます。

## 今年の見学情報

### 1.新しいワークシート

当館では、先生方から寄せられたアンケート結果やご感想、実際の使い勝手などを考えて、毎年ワークシートを作り直しています。今年度はよりわかりやすくするため写真の数を増やし、内容もポイントを絞り、文字も大きくしてみました。ワークシートは児童が記入に気を取られてしまったり、展示を見るのがおろそかになってしまうという傾向がどうしてもあります。今回の改定でも、そうした点を配慮してさらに改良を加えてみました。

昨年と同様、ワークシートは3種類作りました。

「物流の歴史」展示室のワークシートでは、江戸時代の飛脚や貨物船（菱垣廻船）の模型の写真に掲載し、機械力のなかった時代の輸送のようすをとりあげ、また、鉄道錦絵や模型の写真によって明治時代以降の鉄道、船、トラックの輸送について扱っています。現在のような輸送のしくみが出来あがってきた歩みを簡単に理解できるように構成してみました。

「現代の物流」展示室のワークシートでは、陸海空の物流ターミナルのジオラマについての質問コーナーを昨年度版より大きく扱うことにし、同時にジオラマの写真に掲載して、見てもらいたいポイントを強調してみました。鉄道コンテナの種類、トラックターミナルで大活躍している自動仕分け機、港で巨大船にコンテナを積みおろしするガントリークレーン、機体の先端部分（ノーズヘッド）が開く貨物専用ジャンボ機などに注目することで、それぞれの輸送手段の特徴やさまざまな工夫がよく

わかるのではないかと思います。その他の設問についても解答が難しいものを削り、内容の整理をしてみました。

上記のワークシートは、2つの常設展示室の展示内容全体について、ポイントを押さえながら理解できるように作られています。これらに加え、昨年はテーマ別のワークシートとして、「みちかな物流—宅配便」というワークシートを作りました。今回はこれについても、昨年のもが少し質問がむずかしかったので質問数を減らし、質問の仕方を変えたものを作ってみました。

物流博物館ではこれらのワークシートが掲載された『社会科見学の手引き』を発行していますので、ご希望の方はお気軽にお申し出ください。

### 2.宅配便Q&A

昨年度から本格的に始めた宅配便の質問の時間が大変好評だったので、ご希望の学校には今年も引き続き実施して行きたいと考えています。具体的な進め方は、事前に児童の皆さんに質問したいことを考えてもらい、質問リストをFAX等でお送りいただき、見学日当日に宅配便の係の人が講師となってそれにお答えするという形となります。当日はリストにない質問にもお答えできますが、数字等すぐにはわからない質問に関しては、後日回答させていただく場合もあります。

なお、宅配便の繁忙期（お中元・お歳暮の時期）には講師派遣ができませんのでご了承ください。また、講師の日程調整の関係があるため、実施をお考えの場合にはなるべく早めにご連絡ください。質問リストもできれば1週間くらい前にお送りいただくとありがたいです。

### <館内で見られるさまざまな映像>

館内でたくさんのオリジナルの映像作品が見られるというのも、当館の特徴のひとつです。全部で17本の作品がありますが、その内のいくつかをご紹介します。

#### ビデオブース（「現代の物流」展示室）

物流に関する5本のオリジナルのビデオ（1本5分程度）を見ることができます。それぞれ、宅配便、会社の活動を支える物流、生鮮品の輸送、パソコンができるまで、バイク便・ひっこし・トランクルームなどを紹介した作品です。

#### 大型ジオラマ解説映像（「現代の物流」展示室）

鉄道貨物ターミナル・トラックターミナル・コンテナ埠頭・空港について、3分程にまとめた4本の映像が見られます。

#### 歴史模型の解説映像（「物流の歴史」展示室）

「物流の歴史」展示室にあるモニターでは、江戸時代の陸上輸送の模型、明治初期の新橋駅貨物ホームの模型、昭和30年頃の地方駅貨物ホームの模型に関する3本の映像を見ることができます。



## 総合的な学習への対応

来年度は新学習指導要領の実施にともない、小学校5年生の社会科における運輸の取り上げ方もこれまでと形が変わるため、当館での小学生の見学のあり方も見直す必要が出てくると考えられます。また、「総合的な学習の時間」の本格的な実施にともない、博物館と学校教育のより緊密で持続的な関係のあり方について考え、当館としての可能な取組みを模索して行くことも求められているといっいでよいでしょう。

当館では、学校教育における「総合的な学習」への博物館としての取組みとして、今のところ次のような点について検討を行っています。

- ①学習を進めていく上での問題関心の発端として、博物館内における博物館資料（実物資料、文書史料、写真、16mmフィルム、ビデオなど）を提供し、さまざまなレベルでサポートを行う。
- ②具体的な学習テーマの例示。
- ③物流産業で働く人を招いての学習（館内）。
- ④物流に関するさまざまな疑問に対する情報提供。

このような取組みを通じ、博物館と学校との活発なコミュニケーションを実現できないかと考えています。

今年度は、こうした対応への準備期間として位置付け、地域の先生方に呼びかけて、館内に先生方と館職員の会合「学校教育と博物館の連携準備会」を設け、具体的な学習プログラムの開発、学校側の要望・博物館側の意図の相互理解の促進を図っていきたくと考えています。

## 夏休みの事業報告

### 「親しむ博物館づくり」委嘱事業

当館では、毎年夏休みにこども向けの体験講座を開催していますが、今年度はこれらの事業が文部科学省の委嘱事業となり、国の費用で事業を実施できることになりました。事業への参加者は約250名でした。

実施した事業は、8月7日(火)・16日(木)・17日(金)の「小学生バス社会科見学会」、8月15日(水)・22(水)の「お宝を包んでみようー美術品の包み方を体験！ー」、



「小学生バス社会科見学会」(青海コンテナ埠頭にて)

8月24日(金)の「ひっこしタイムトライアルーひっこしの仕事に挑戦！ー」、8月19日(日)・29日(水)の「工作教室ーはこぶ乗り物をつくってみようー」の4事業です。

「小学生バス社会科見学会」では、物流博物館を見学の後、東京港の青海海上コンテナ埠頭、JR貨物東京貨物ターミナル駅、羽田空港JAS客室訓練センター、羽田空港貨物地区の貨物上屋、新木場にある日本通運の東京中央ターミナル(トラックターミナル)を、1日かけてバスで見てまわりました。当館の「現代の物流」展示室にある大型ジオラマ模型の実物を見に行こうという試みで、3回とも大勢の参加者がありました。

恒例の「お宝を包んでみよう」では、日通の美術品梱包の専門家を先生に迎え、こわれやすい壺や置物を特殊な方法で包んでみました。慣れない手つきで悪戦苦闘しつつ、「包む」という仕事の奥の深さを実感できたのではないのでしょうか。「ひっこしタイムトライアル」では、ひっこし博士から指導を受けながら、クイズやゲームの形式でひっこしのワザをマスター。背の高さが変わる不思議なトラック「リンボー車」の荷台にも乗せてもらって、みんな大喜びでした。

「工作教室」では、段ボールを使って船やトラックを作りましたが、独創的な作品がたくさんできました。夏休みの楽しい思い出になったのではないのでしょうか。

## 物流博物館のご案内

所在地 〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15  
Tel 03-3280-1616 Fax 03-3280-4385  
<http://www.lmuse.or.jp>



開館時間 午前10時～午後5時

休館日 毎週月曜日

(但し月曜日が祝日・振替休日の場合は、その翌日)  
毎月第4火曜日、祝日の翌日(但し土日を除く)  
年末年始(12月28日～1月4日)

入館料 小中学生:100円(第2・4土曜は無料)  
高校生以上:200円  
(いずれも団体20名以上半額)

※学校関係の団体は入館料が免除になります。